【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年4月8日(2010.4.8)

【公開番号】特開2008-172296(P2008-172296A)
【公開日】平成20年7月24日(2008.7.24)
【年通号数】公開・登録公報2008-029
【出願番号】特願2007-833(P2007-833)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｗ　4/00　(2009.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｂ　7/26　Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成22年2月22日(2010.2.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
図４（ａ）は、ＭＡＣ-ＰＤＵ生成部１３が、１つのＭＡＣ-ＳＤＵ＃１を多重化してＭＡＣ-ＰＤＵを生成する場合の例について示し、図４（ｂ）は、ＭＡＣ-ＰＤＵ生成部１３が、複数のＭＡＣ-ＳＤＵ＃１-１及びＭＡＣ-ＳＤＵ＃１-２を多重化してＭＡＣ-ＰＤＵを生成する場合の例について示す。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
ここで、「Ｃ/Ｔ」は、ＭＡＣ-ＰＤＵに多重化されているＭＡＣ-ＳＤＵに対応する論理チャネルやＭＡＣコントロールブロックやＰａｄｄｉｎｇを識別するための情報である。図４（ａ）の例では、「Ｃ/Ｔ」は、ＭＡＣ-ＰＤＵに多重化されているＭＡＣ-ＳＤＵ＃１に対応する論理チャネルを識別するための情報である。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５３】
また、受信機３０が、上り方向のデータを受信する無線基地局ｅＮｏｄｅＢであると想定した場合、ＭＡＣレイヤ機能であるスケジューラから、ＭＡＣ-ＰＤＵのサイズを示すＭＡＣ-ＰＤＵサイズ情報を取得するように構成されている。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７０】

ステップＳ２０２において、受信したＭＡＣ-ＰＤＵに付与されているＭＡＣヘッダ内に「ＬＩ」が含まれていないと判定された場合、受信機３０のＭＡＣレイヤ機能が、ＭＡＣヘッダ内に含まれている「Ｃ/Ｔ」によって、当該ＭＡＣ-ＰＤＵに多重化されている情報要素を識別し、物理レイヤ又はスケジューラから通知されたＭＡＣ-ＰＤＵサイズ情報に含まれるＭＡＣ-ＰＤＵのサイズ及びＭＡＣヘッダのサイズに基づいて、識別した情報要素（例えば、ＭＡＣ-ＳＤＵ）を取得する。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７３】
（本発明の第１の実施形態に係る移動通信システムの作用・効果）

本発明の第１の実施形態に係る移動通信システムによれば、ＭＡＣヘッダに含まれる「ＬＩ」の長さ（「ＬＩ」に必要なビット数）を固定長（固定ビット数）とすることができるため、高速パケット通信において、多重化するＭＡＣ-ＳＤＵのサイズを示す「ＬＩ」に必要なビット数の増加によるオーバヘッドの増加を軽減することができる。